

世界に届け、安全な水

筑波大学附属小学校

四部四年

瀬戸山 天椀

社会の授業で水道水は地域によつて水源がちがうことを初めて知り、私の住んでいる文京区の水は利根川・荒川水系を使っていることが判明した。また、利根川・荒川水系は高度浄水処理場があるが、同じ東京でも多摩川水系は高度浄水処理をしていないことを知った。つまり、利根川・荒川は多摩川に比べ水

が汚いということになる。父に利根川・荒川は汚いんだねと言ったら、都内の下流の水はそこまできれいではないが、上流は、ものすごい透明できれいだから見に行ってみようと車で四時間かけ上流へ向かった。そこには冷蔵庫で冷やした水よりも冷たい水があった。真夏で気温は三十五度近くあるのに、川に足を入れたら、五秒も入れていられない程の冷たさ。カヌーにのり、川底を覗いたら、水深四メートルはある底まで、きりと見える透

明度。二階の教室から運動場を見るような高さを感じ、水がきれい過ぎて怖かった。そして川の周りは豊かな森林が多くあり、授業で勉強した「多摩川水源森林隊」の皆さんがボランテアで枝打ち作業をするなど、山全体の保水力を高める活動をされていることを思い出した。その活動があるからこそ、雨水がゆっくりと「ろ過」され、このきれいな水源が出来上がっているのだなと実感し、これまで気にもとめなかつた山に対する見方が変わった。

た。帰りの車の中で、父に日本で有名な四大公害、特に熊本県と新潟県の水俣病と富山県イタイイタイ病について話を聞いた。地域の工場排水に水銀やカドミウムといった人の健康に被害を及ぼす物質が含まれており、食物連鎖を介して魚や稻を食べた人が手足や口のしびれる症状、くしゃみやみをするだけで骨折したり、死亡した人もいたそうだった。これを知り、安全な水が出てくる時代に生まれて良かったと思っただが、世界を見渡せばどうやらそう

でもないらしい。帰宅して調べてみると、世界
界中で蛇口から安全な飲み水が出てくる国は
百九十六カ国中、九カ国しかなくて、本当に
びっくりした。世界銀行の発表によれば、中
国における約八十パーセントの地下水が有毒
な物質等によって汚染されているとのこと。
農業で大量の農薬や化学肥料を使用している
からで、日本の国土とは比べ物にならない広
い地域、工場の周辺に限定された汚染ではな
く、田舎にまで広がっている点が深刻だなと
思った。更におどろいたのが汚染された地下
水を元に戻すのには、少なくとも数百年ある
いは千年以上かかる」と書かれていたことだ。
そして、私と同じ年位の女の子が家族のため
丸一日かけて水くみをする動画も見て、私は
なんて勿体ない水の使い方をしていたのだろ
うと反省した。また二〇四〇年、世界で最も
貴重な資源は「水」という記述もあり、これ
まで水をめぐる戦争がアフリカやアジアを中
心にいくつも起きていたことも知った。これ

ら学びSDG^sにある「安全な水とトイレを世界中に」、「質の高い教育をみんなに」を進めるためにも、いまの自分には何ができるかを改めて考えてみた。①水を無駄づかいしない（お風呂のシャワーを出しっぱなしにしない）、②生活排水を出来る限りきれいなものにするため、食べ残しをしない、油汚れは別で拭き取ってから洗う物始める、③将来より高度な浄水処理技術を途上国に教えてあげるため、語学力含め、幅広く勉強すること。これも大事だなと思った。

最後に政治家の方に伝えたいアイデアがある。水を守るボランティア活動をしている「夕摩川水源森林隊」の皆さんには財源の限界があるので、その活動費用を国で負担できないものか。そのための資金は日本国民の意識を変えるためにも、ちょっと粗治療かもしれないが、水道料金を一気に上げる（新たな税金を付加する）のも手だと思う。世界の一月あたり水道料金を調べてみると、日本

は十三ドルに対し、アメリカのサンデーエゴ
は約三倍の三十七ドルと、日本は比較的安価
で引き上げ余地がまだあるのではないかと思
た。当然、所得が低い人は、現状のままでも
仕方ないが、所得が高い人、プール等の水を
大量に使う娯楽施設には、びっくりする位に
水道の価格を上げれば、一気に無駄遣いする
人が減るのではないかと思う。実際、数年前
にビニール袋を有料化したら、皆がエコバツ
クを持ち歩き、必要最低限の袋しか使わなく
なつて、国民みんなの努力で資源の無駄遣い
が減ったのだから、将来の日本のため、日本
が世界のお手本を示すためにも、良いアイディ
アではないだろうか。二〇四〇年までもう時
間がないのだから、是非、有限な水資源を守
る検討をしてもらいたい。